

第1回 LPの河川定期縦横断測量への適用検討会

日 時 : 平成 30 年 1 月 15 日(月) 13:00~15:00

場 所 : 中央合同庁舎第3号館1階 共用会議室

<議事要旨>

○ALBの計測可能深度は、水質(特に濁度)によって異なる。濁度と計測可能深度との関係を明確にできないか。

○航空レーザ測量に用いるレーザに関して、その出力は4段階あり、レベル4の高出力となると人体へ影響が考えられる。河川利用者への影響を考慮し、河川におけるレーザの出力レベルを定める必要がある。

○航空レーザ測量は、フットプリント内のどこの地点を計測しているのか分からないため、水準測量に対して精度が劣る。河川管理者として、どの程度の精度を求めるのかを整理する必要がある。

○目的(流下能力評価、河道管理、河川構造物管理等)に応じて、計測対象や必要となる測量精度が異なる。利用者である現場のニーズを踏まえて測量精度を検討してほしい。現行の基準に記載される測量精度は、測量手法から決定されており、ニーズによって測量精度を緩和することも検討すべき。

○計測手法別に測量精度を整理する必要があるのではないか。

○堤防管理上、連続的な堤防高のデータは重要であり、三次元データの活用が必要である。縦断測量への適用についても検討すべき。

○河川管理に三次元データを活用することにより、今までできなかったことが可能となるため、どのようなメリットがあるのか整理する必要がある。

以上